



～エイズ街頭キャンペーンに参加して～



去る6月4日(日)に郡山市保健所主催のHIV検査普及街頭キャンペーンが郡山市で行われ、福島県医療ソーシャルワーカー協会もボランティアとして参加しました。HIVに関心をもっていただけのように、専門学生の方がレッドリボンのネイルを実施し、啓発グッズやパンフレットの配布などの啓発活動を行いました。

私もアンケート実施に携わらせていただき、市民の方々にアンケートの協力を呼びかけていると、学生の方からは「学校の保健の授業でHIVのことを聞いたことがある」、また20～30代くらいの方は「HIVに関心があるのでいいですよ」と快くアンケートに答えていただけることが多かったです。他には「私たちの年代(ご年配の方)でHIVにかかることは少ないでしょ?」、「日本でHIVに感染している人は少ないよね?」などの声もありました。年代により様々な意見や考えの違いがあるのだとわかりました。

HIVは性交渉で感染することが最も多いのですが、「性」の話をするのが恥ずかしいと思う方や、悩みがあっても家族や友人に言いづらいと考えこむ方もいると思います。そのような方も相談や検査が受けやすい環境を整えることが必要だと考えられます。匿名で検査も受けられるという情報を広く発信し、早期発見につなげる普及活動を今以上にしていくことの必要性を感じました。また、日本のHIV感染者は働き盛りの方が多いと今回のキャンペーンを通して学びまし

た。その年代の方々が検査をしやすい曜日や時間を考慮することにより、検査も受けやすくなるのではないかと考えました。そして、このような啓発活動を通してHIVの正しい情報を幅広い年代の方々に知ってもらえるように今後もこのような活動に、私も多く参加していきたいです。

太田西ノ内病院 大竹唯夏

～事例報告～

当協会会員は、これまでエイズ・HIV陽性患者への支援経験がないことが多く、会員から不安の声が聞かれましたが、近年、会員の中から支援に携わった事例の報告をいただくことができました。貴重な事例を通して、SWの悩みや葛藤などを共有し、エイズ・HIV患者支援への意識を高めるきっかけになればと思います。なお、個人や医療機関は特定されないよう配慮をしておりますのでご了承ください。



事例①

【基本情報】

初診で外来に来院された20代・男性
HIV陽性の方であり、数年前から定期的に受診はしていたようだが仕事の都合で他県より転居されてきたとのことで、当院へ紹介になっていた。

【紹介経路】

内科の医師より「自立支援医療などの社会資源をどの程度利用できている状況なのか確認を含めて本人から話を聞いて欲しい。手続きしていないのであれば申請を進めて欲しい。」とのことで介入依頼があった。

【援助経過】

まずは本人と面接を行い、状況確認を行った。治療を開始した頃に通院していた医療機関にて身体障害者手帳や自立支援医療について詳しく説明を受けていたとのことで、必要な手続きは既に済んでいる状況だった。そのため身体障害者手帳や自立支援医療の受給者証は所持しており、実際に見せていただくこともできた。また、転居にあたり住所地の変更等の手続きが必要なことを伝えましたが、既に手続きはされている状況だった。今回が初めての転居では無かったこともあり、その点についても前医にて説明がされていたため、その際に必要な手続きについては理解されていた。本人からは今特に困っていることは無いとの話があり、利用できる制度等に関してもきちんと手続きが行えていた状況でもあったため、今現在の生活状況の確認や利用できる社会資源の整理、今後何か相談等があった際に利用してもらえるよう相談室についての情報提供を行った。